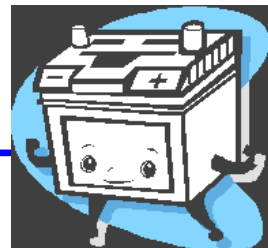


バッテリーの輸入について

自社又は個人的に使用する自動車用等のバッテリーの通関はあまり見かけないと思いますが、実は通関実績が少なくはないのです。
今回はその輸入の際のポイントについて説明します。



* そもそもバッテリーとは？

バッテリーは、化学反応を応用し、反応により発生する電氣的なエネルギーを、一時的に蓄えたり、必要に応じ取出したりする電源装置で、自動車等にとって無くてはならない部品です。用いる化学物質により色々な種類があり、例えば、ニッケル・カドミウムバッテリーや鉛バッテリーなどがあります。

主に自動車等で使用されるのは鉛バッテリーで、**鉛**を含む電極槽に**硫酸**を充填することで起こる化学反応を利用しています。



* 輸入に際し必要な諸手続き

硫酸は**毒物及び劇物取締法**(以下「**毒劇法**」)と**麻薬及び向精神薬取締法**(以下「**麻向法**」)で規制されていますが、バッテリー本体に充填された製品の輸入であれば、特定の場合を除き、規制の対象になりません。

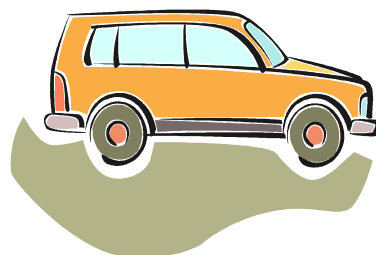
しかし、**バッテリー本体と充填される硫酸が分離された状態**で輸入される場合、これらが同一に梱包されていたとしても、この硫酸は、前記二つの取締法の規制対象となります。

分離状態のバッテリーを、

- ① 販売又は授与の目的で輸入する場合は、**毒劇法第3条第2項等に基づく輸入業の登録**を要し(取扱品目ごとの登録が必要です)、
- ② **麻向法第50条の27に基づく業務の届出**又は**第50条の31に基づく輸入の届出**も併せて必要となります。

※申請先：

- ①…各営業所所在地の都道府県の薬務主管課
(東京の場合、東京都福祉保健局)
- ②…各営業所所在地を管轄する厚生労働省地方厚生(支)局
(東京の場合、関東信越厚生局薬事監視専門官)

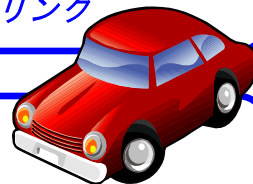


*コピー商品に注意！！

自動車用等のバッテリーには、構造上の発明についての特許権やブランドマークについての商標権等、**知的財産権**が登録されているものがあります。これらの発明や商標等を**不正に使用した粗悪品**(いわゆるコピー商品)を使用することは、事故にも繋がりがねない**危険**なことです。またこれらは知的財産侵害物品として、**関税法で輸入が禁止**されており、輸入すると、**罰則を受ける**ことがあります。

インターネット通販などで**過剰に広告しているサイト**や**不自然に金額の安いもの等**については、コピー商品の可能性がありますので、**ご注意ください**。

※知的財産につきまして、詳しくはこちらもご確認ください⇒[知財ページへリンク](#)



*品目分類と税金について

バッテリーは、基本的に関税率表第85.07項の蓄電池に分類されます。第85.07項の物品は、全品目において関税無税となっておりますので、バッテリーの輸入の際に必要な税金は消費税のみとなります。